

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	輝く学生応援プロジェクト		
予算額	7,500千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠・局配分枠
担当課	市民協働政策推進室大学政策担当(222-3103)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市は、現在37の大学・短期大学が集積し、総人口の約1割に当たる約14万人の学生が在籍する「大学のまち」「学生のまち」であり、大学振興をまちづくりの重要な柱の一つと位置付け、「大学コンソーシアム京都」の設立や「京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）」の建設など、先駆的な取組を進めてきた。</p> <p>学生のエネルギーは、ボランティアなどの社会貢献活動や京都学生祭典など、様々なイベント等の開催を通じて、京都のまちに活気をもたらし、まち全体のパワー向上につながる。そこで、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」でも、学生の主体的な活動を応援する「輝く学生応援プロジェクト」の展開を盛り込んでいる。</p> <p>平成21年度には、「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」内にプロジェクトチームを設置し、実際に活動を行っている学生等から幅広く聴取した意見をもとに検討を行った。</p> <p><u>この検討結果に基づき、平成22年度から本プロジェクトを展開する。</u></p>			
<p>[事業概要]</p> <p>キャンパスプラザ京都1階に整備する「学生の活動拠点」（平成22年7月のオープンに向け現在整備中）において、学生が大学の枠を超えて行く、京都のまちの活性化につながる活動に対し、以下のとおり総合的な支援を行う。</p> <p>学生に対し、活動に資する様々な情報や市政情報等を提供するとともに、学生の活動内容を掲示するなど情報発信を行う。また、活動する学生が交流する機会の提供、助言や相談を行う。</p> <p>まちの活性化につながる活動に対し、助成や表彰を行う。</p> <p>学生の活動と地域のニーズとのマッチング、連携の促進を支援する「学生・地域連携ネットワーク」（平成21年度～）の充実を図る。</p>			
<p>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</p> <p>総事業費 7,500千円 うち未来まちづくり枠5,000千円、局配分枠2,500千円</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	京都創生 PR 事業「京あるき in 東京」(仮称)		
予 算 額	12,000千円	新規・継続の別	新規
		来まちづくり推進枠・局配分枠の別	局配分枠
担 当 課	政策企画室京都創生担当 (222 - 3375)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>国家戦略としての京都創生を推進する関係団体や首都圏に進出している京都企業、大学、団体等が協力し、東京において京都をアピールする事業、イベント等を集中して実施することにより、京都ファンのより一層の拡大と京都創生の取組のPRを図る。</p> <p>[事業概要]</p> <p>京都ウィークを設定し、観光誘致のイベントや京都物産展、京町家まちづくりファンドの募金活動など、多彩な事業を展開する。</p> <p>(1) 主催 京都市、京都商工会議所、京都市観光協会、京都創生推進フォーラム</p> <p>(2) 実施時期 平成23年2月頃</p> <p>(3) 実施場所 JR東京駅八重洲口にある「京都館」を中心に、東京の大学(京都の大学のサテライトキャンパス等)、百貨店、参加事業所、施設等で実施</p> <p>(4) 想定事業例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光関連イベントの開催 ・東京にある飲食物販等の京都企業、事業所等による協力事業 ・百貨店等での京都物産展 ・京都文化等を紹介するシンポジウムの開催 ・大学の東京サテライトキャンパスでの京都関連講座 ・京町家まちづくりファンドのPR及び募金箱の設置 など 			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p> <p>京町家まちづくりファンドへの寄付促進、観光客の誘致、京都ブランドの発信につながる。</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	次期京都市基本計画の策定に向けた取組		
予 算 額	62,000 千円	新規・継続の別	継 続
		来まちづくり推進枠・局配分枠の別	来まちづくり推進枠
担 当 課	政策企画室政策企画・計画調整担当(222-3035)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>地域主権時代のモデル都市を目指し、平成23年度から10年間の京都の未来像と主要政策を明示した都市経営の基本となる次期京都市基本計画の策定に向けた取組を進めている。</p> <p>平成22年度は、引き続き京都市基本計画審議会や「未来の担い手・若者会議U35」を運営するとともに、シンポジウムなどの市民参加事業を開催する。そして、審議会からの答申を受け、計画案について市会の議決を得た上で、次期京都市基本計画を策定する。</p> <p>[事業概要]</p> <p>1 平成22年度の取組内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都市基本計画審議会」の運営 ・ 「未来の担い手・若者会議U35」の運営 ・ <u>パブリック・コメントの実施, シンポジウムの開催</u> ・ <u>市会への提案・審議, 基本計画の策定</u> など <p>(参 考) 平成21年度の主な取組内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「未来の京都創造研究会」の運営 2 「京都市基本計画審議会」の設置・運営 3 「未来の担い手・若者会議U35」の設置・運営 4 市民参加事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民きょうかんインタビューの実施 ・ 「私と京都のマニフェスト」「京(みやこ)・未来予想図」の募集 ・ 「きょうと絵画・絵日記・ポスター」の募集 など <p>[参 考(他都市の状況・事業効果など)]</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	山ノ内浄水場跡地活用方針の策定		
予 算 額	4,500千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	市民協働政策推進室プロジェクト推進担当 (222-3032)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>平成24年度末に廃止予定の山ノ内浄水場の跡地は、地下鉄東西線の太秦天神川駅、SANS A右京に近接する都心部に残された最大の活用可能な用地であることから、平成21年2月に、跡地活用について全市的な観点から多角的に検討していくため、関係局・区による庁内プロジェクトチームを設置し、民間活力を活用する前提の下、当地にふさわしい施設や都市計画上の課題等について検討を行ってきた。</p> <p>[事業概要]</p> <p>学識経験者等で構成する審議会を設置し、西部地域のまちづくりや地下鉄増客等、幅広い観点から議論を進め、跡地の活用方針を策定するとともに、活用事業者の選定に向けた取組を進める。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p> <p>山ノ内浄水場の概要</p> <p>所在地 京都市右京区山ノ内五反田町 ほか</p> <p>面 積 約58,000 m²</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	京都・グアダラハラ姉妹都市提携30周年記念事業		
予算額	14,746千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠 局配分枠
担当課	国際化推進室(222-3072)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市とグアダラハラ市(メキシコ合衆国)は昭和55年(1980年)に姉妹都市提携を行い、平成22年度には提携30周年を迎える。</p> <p>これを契機に、両市の交流を一層図るとともに、国際都市・京都を世界に向けて発信する30周年記念事業を実施する。</p> <p>[事業概要]</p> <p>(1) 両市の代表団の相互派遣</p> <p>(2) 京都におけるグアダラハラの文化紹介(平成22年9~10月実施予定)</p> <p>京都市内において、音楽演奏等、メキシコ及びグアダラハラの文化を紹介するイベントを実施するとともに、市民レベルの交流を推進する。</p> <p>(3) グアダラハラにおける京都・日本の文化紹介、京都創生の海外発信(平成22年8月実施予定)</p> <p>グアダラハラにおいて、相撲を通じた交流等、京都・日本の伝統文化を紹介するイベントを行うとともに、京町家や観光のPRなど京都創生の海外発信を行う。</p>			
<p>[参考(他都市の状況・事業効果など)]</p> <p>総事業費 14,746千円</p> <p>うち、未来まちづくり推進枠 7,000千円</p> <p>局配分枠 7,746千円</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	「国際文化交流大使」の創設		
予 算 額	1,000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	国際化推進室(222-3072)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 多文化共生の地域づくりを進めるためには、外国籍市民の社会参加を促進するとともに、市民が様々な文化や言語に触れることで、豊かな国際感覚を身に着けることが重要であるため、「京都市国際化推進プラン」(H20策定)において、「外国籍市民が活躍できる機会の提供」に取り組むこととしている。</p> <p>[事業概要] 1 趣 旨 京都で暮らす様々な国の方を「国際文化交流大使」に任命し、市内の各種団体や地域、学校の催しなどに出向いていただき、講演や文化紹介を行っていただく。それぞれの国の歴史・文化・生活との触れ合いを通じて交流を深める。</p> <p>【派遣先の例】 自治会、PTA、学校、福祉施設、民間企業などの会合、イベント</p> <p>2 人 数 20名程度(グループも可)</p> <p>3 活動開始時期 平成22年秋～</p>			
<p>[事業効果] 市民が、身近な場において、外国の文化や料理、生活習慣等に直接触れる機会を増やし、多文化共生の地域づくりを促進できる。</p>			

平成22年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	新たな市民参加推進計画の策定		
予 算 額	2,000千円	新規・継続の別	新規
		来まちづくり推進枠・局配分枠の別	局配分枠
担 当 課	市民協働政策推進室市民協働担当 (222-3178)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市では、「市政への市民参加」と「市民の自主的なまちづくり」の両面から市民参加を進めるため、全国に先駆け平成13年12月に「京都市市民参加推進計画」を策定した。</p> <p>これまで、審議会の原則公開、審議会委員の公募、パブリック・コメントの制度化、市民活動総合センターの開設などに取り組み、市民参加を行う基盤づくりを着実に進めてきた。</p> <p>現計画は、平成22年度までを計画期間としていることから、これまでの本市の取組や現在の社会状況などを踏まえ、更なる市民参加の推進に向けて、<u>平成23年度から10年間を実施期間とする新たな市民参加推進計画を策定する。</u></p> <p>[事業概要]</p> <p>平成22年度は、市民と行政の協働を推進する審議会「市民参加推進フォーラム」において現計画の進ちょく状況の検証や課題の整理を行った上で、新計画に盛り込むべき項目等をまとめて提言書として本市に提出していただく。</p> <p>平成22年度秋頃には、いただいた提言書を生かして新計画の素案を作成し、パブリック・コメントを経て新計画を策定する。</p>			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			